

歯の妖精 TOOTH FAIRY

2017年1月マンスリーレポート

1.障がい者トップアスリートへの歯科支援

TOOTH FAIRYはパラリンピックで活躍するパラアスリートの歯科支援をおこなっています。マウスガードの作製や歯科講話を通して支援したパラアスリートも、難病の子どもたちを応援します！

(1) パラ・パワーリフティング連盟

対象：選手、コーチ等5,6名

競技概要：下肢障がいの選手たちによるベンチプレス。鍛え抜かれた上半身でバーベルを持ち上げます。シンプルな競技の中には選手たちの闘志や緊迫感、そして歓喜など、競技の魅力が凝縮されています。



【左】現場で歯形の型取りと調整を実施。

【右、左下】完成したばかりのマウスガードを装着して練習しました。



【右】スポーツ歯科に関する講義も実施しました。

(2) 日本車いすフェンシング協会

対象：選手、コーチ等10名

競技概要：「ピスト」と呼ばれる装置に車いすを固定し、競技者の腕の長さに応じて対戦者間の距離を調節して、上半身のみで競技を行います。1960年の第一回ローマパラリンピックからの正式競技種目で、ヨーロッパで特に盛んな障がい者スポーツの一つです。



【左】現場で歯形の型取りと調整を実施

【下】競技練習風景



【所感、選手からの感想】

車いすフェンシングには3種類の競技があり、この日はサーブルと呼ばれる「突き」動作が主体の種目をおこないました。サーブルでは車いすが110度に固定され、右半身を傾けた姿勢で長時間固定されるため、正面を向いて型取りしたマウスガードでは左奥歯に隙間が発生し、調整が必要となりました。

今後事業を継続する上で、各競技の特性を踏まえ、進めていきます。

【2017年1月20日】

(3) 日本障害者カヌー協会

対象：選手、コーチ等10名

競技概要：脳性麻痺や切断など、肢体不自由者（上下肢障害）を対象とした競技。

パラリンピックのカヌー（パラカヌー）は、選手ごとの障がいの度合いに応じて分かれたクラスごとに、記録を競います。

※当日の様子が、取材されました
 (左) デンタルダイヤモンド3月号
 (2月末発売予定)
 (右) 日本歯科新聞 1月31日号



東京オリンピックパラリンピックを前にスポーツ― 歯科の重要性への認識が高まる中、日本障害者カヌー

パラアスリートにマウスガード

日本財団らが支援事業

協会の選手ら19人に対して、無償でマウスガード作製・提供が行われた。日本歯科医師会と日本財団による「トウースフェアリープロジェクト」の一事業「障害者スポーツアスリートへの歯科支援」で、東京歯科大学の協力の下、東京都新宿区の戸山サンライズで20日に型取り。写真、22日に引き渡しを実施した。

トウースフェアリープロジェクトは、撤去金属のリサイクルによる資金面の支援や口腔ケア、予防教育を

1月にはパラ・パワーリフティング連盟の選手ら6人、日本車いすフェンシング協会の選手ら10人にもマウスガード提供および歯科講義を行っている。

歯科医師のボランティアによって進める社会貢献活動。2016年度から着手した今回の事業では、パラリンピック団体および選手が、口腔の知識を高め、けが予防の知識を身に付けるとともに、歯科のな外傷があった場合のサポート体制構築を目的としている。

▶パラカヌー選手へのマウスガード作製と歯科講話が開催される

1月20日(金)、戸山サンライズ(東京都新宿区)において、パラカヌー選手へのマウスガード作製と歯科講話が行われた(主催：日本財団/協力：日本歯科医師会の社会貢献事業 TOOTH FAIRY)。



武田友孝氏(東歯大)による歯科講話は、咬筋の動きや、歯や咀嚼筋の情報が脳活動へ及ぼす影響など、歯科の基礎知識から、マウスガードの効果や使用方法についてなど、幅広く解説された。マウスガードを使用することによってパフォーマンスが向上すること、歯を外傷から守ることなどのメリットがあるとし、歯科医師による、適切なカスタムメイドマウスガードの作製を

推奨した。また、ハンマー投げやラグビー、サッカーのヘディングなど、インパクトの瞬間の咬みしめの計測データを呈示。参加者は熱心に聞き入っていた。

その後、マウスガード作製のための印象採得が行われた。マウスガードの重要性を聞いたあとということもあり、コーチやスタッフからも「作製したい」という声が上がると、大いに盛り上がった。

■感想■

パラ・パワーリフティング (コーチ)

…日常的に、余り、かみしめないでトレーニングすることに慣れているので、改めてかみしめることに違和感はある。いつ、どのタイミングでかみしめれば良いか、を探っていきたい。

パラ・パワーリフティング (選手)

…バーベルを胸から突き放すところで、ぐっと、かみしめると良いような気がする。

車いすフェンシング (選手)

…奥歯の磨耗が激しいことが気になっていた。マウスガードを装着後の成果に期待したい。

2. 歯科医師によるミャンマーボランティアツアー

【内容】

建設学校の視察と、無歯科医村での口腔ケア啓発ボランティアを実施しました。

【場所】

ミャンマー連邦共和国 イラワジ地域

【参加者】

15名（歯科医師13名、歯科大学留学生2名）

（右）今回参加した歯科医師の先生方



【日程】 2017年1月25日（水）～1月29日（日）

- 1月25日 出発、ヤンゴン着
- 1月26日 イラワジ地域ピャンイェーゴ学校訪問、ボランティア活動
- 1月27日 パヤージーゴン学校訪問、現地歯科医師らと共同でボランティア活動
- 1月28日 ヤンゴンにてミャンマー歯科医師会とディスカッション
- 1月29日 帰国

【ボランティア実施内容】

- （1）口腔衛生指導
...日本人歯科医師による口腔健診を実施しました。
- （2）生活実態調査
...食事内容や回数、口腔ケアの実態などを村人にヒアリングしました。
- （3）現地歯科医師とのディスカッション
...ミャンマー歯科医師会やミャンマー保健省らと意見交換を実施しました。

【訪問校情報】

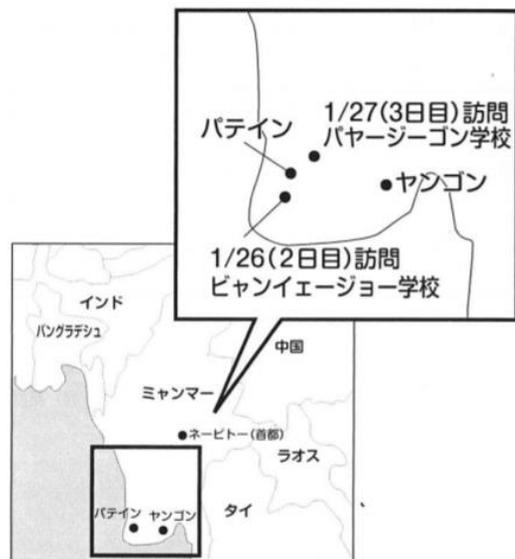
■ 訪問場所：イラワジ地区

ミャンマー南西部に位置し、大きな河川やベンガル湾に面する平野部です。

主な産業は農業。ミャンマーの穀倉地帯で、戦後日本が食糧難になった際に、イラワジで取れた米が贈られました。

雨季になると河川が氾濫し、船での移動が必要な地域もあります。

前大統領のテイン・セイン氏や、ウ・タント第3代国際連合事務総長など、人材輩出地域であり、教育に熱心な人が多いといわれているため、この地における教育改革の成功は、全国への波及効果が最も高くなると考えています。



【ボランティアの様子】

(1)口腔衛生指導…口腔健診（スケーリング）など



(2)生活実態調査

…食事内容や回数、口腔ケアの実態などを村人にヒアリング。



(3)現地歯科医師とのディスカッション

…ミャンマー歯科医師会会長Dr.ティン・チョーと意見交換。



■ 1月26日訪問 ピャンイェーション学校

学校名：Pyanyaykyaw BEMS
 種別：小中学校 / 設立：1974年
 新校舎完成：2015年5月
 生徒数：405人
 村の戸数：900戸
 概要、村の特徴：
 非常に団結力があり、村民一丸となって学校建設に取り組んでいます。



■ 1月27日訪問 パヤージーゴン高校

学校名：Bayagyi Gone BEHS(Branch)
 種別：小中高等学校 / 設立年：1979年
 新校舎完成：2016年2月
 生徒数：586人（小学生77人、中学生320人、高校生189人）
 村の戸数、人口：160戸、約700人
 概要、村の特徴：
 二つの大きな町の境にあり、半数の生徒は片方の町から通う。
 他の17の村からも生徒が通っています。
 村の団結力は非常に強いです。



(補足) ※ミャンマーの学校制度について補足

- 小学校 (Grade 1 ~ 5/5歳~9歳)
- 準中学校 (Grade 1 ~ 8/5歳~12歳)
- 中学校、中学校分校 (Grade 1 ~ 9/5歳~13歳)
- 高校、高校分校 (Grade 1 ~ 11/5歳~15歳)



…ミャンマーでは現在小学校を順次中学校に格上げしており、生徒数が多い学校はその前段階として準中学校に移行します。TOOTH FAIRYでは新しい校舎を建設することにより、子どもたちに高等教育の機会を提供しています。

【企業からの歯ブラシ寄付】



本ツアーには、株式会社サンスター（右）、ライオン株式会社（左）より、歯ブラシの寄付をいただきました。